



河畔林（13. 3K付近）



干潟（3. 9K付近）

とよがわ 豊川

水と緑と 生き物たち



ワンド（14. 4K付近）



早瀬（15. 6K付近）

とよがわのすがた

豊川は愛知県北設楽郡設楽町の段戸山を源流として、宇連川と合流し、蛇行を繰り返しながら豊橋市・豊川市に至る延長77kmの河川です。豊川市行明で豊川放水路と分かれ、三河湾に注ぎます。

豊橋河川事務所は、豊川の河口から27.6km（新城橋まで）と豊川放水路6.6km、支川の一部を管理しています。豊川下流域の河川敷は、公園やグラウンドなどの利用のほか、エノキなどの樹林地がある緑の空間として、地域住民のみなさんに親しまれています。河口付近は潮の干満の影響を受ける区間で、潮がひいたときには干潟があらわれます。だんだん上流にのぼるにつれて蛇行がみられるようになり、早瀬や淵など、流れに変化が出てきます。水際にはツルヨシが生えているところが多く、堤防の斜面には、セイタカアワダチソウやオギなどの草が広がっています。

ワンド



川の岸寄りにできた「水たまり」状の場所です。水際にはツルヨシなどの植物が生え、カエル類など水辺を好む動物のすみかになっています。

ワンド観察ポイント

ひがた 干潟



潮がひいた時に、砂や泥から成る平らな地面があらわれる場所です。ヤマトシジミなどの貝や、シギ・チドリなどの鳥がみられます。

干潟観察ポイント

距離標

(河口からの距離)

0.0K

5.0K

5.0K

10.0K

15.0K

20.0K

25.0K

よしだおおはし
★吉田大橋

えじまばし
★江島橋

しんしろばし
★新城橋

早瀬

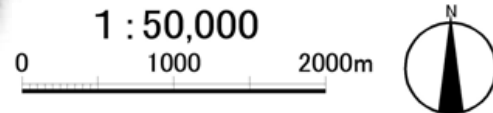


浅く、流れが速いところです。アユやアカザなどの魚がみられます。川底には、流れのある場所を好む水生昆虫がすんでいます。

ふち淵



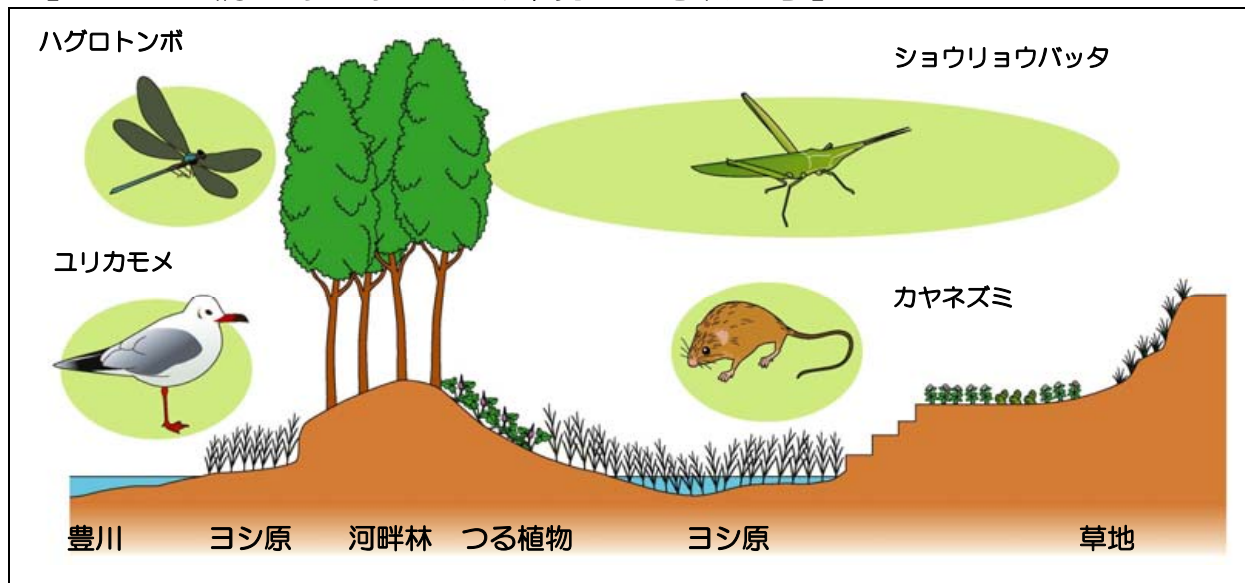
深く、流れが緩やかになっているところです。コイ・ウグイなどの魚がひそんでいます。



1 : 50,000



よしだおおはし
【★吉田大橋あたりの河川環境と生き物たち】




河口部の汽水域（海水と淡水が混じりあう場所）に位置しており、干潮時には干潟があらわれます。干潟では冬にユリカモメなどの鳥が群れでみられます。

水際の湿地にあるヨシ原は、カヤネズミやトンボたちのすみかになっています。陸地から半島状に張り出した場所には、エノキの河畔林があります。堤防の斜面には草がみられ、バッタの仲間が生息しています。

鳥類



ユリカモメ



翼をひろげた大きさが60cmくらいの、カモメのなかまです。冬鳥として日本に渡ってきて、春まで暮らします。冬羽では頭が白く、夏羽では頭が濃い茶色になります。

哺乳類


カヤネズミ

しっぽを除いた体の長さが6～7cmくらいの、最も小さなネズミのなかまです。春の終わりから冬のはじめにかけて、草の茎に丸い巣（写真）をつくり、その中でくらしします。冬は地面の落ち葉などの下や地下に掘った穴でくらしします。

昆虫


ショウリョウバッタ



オスは5cmくらい、メスは8cmくらいの大きさになるバッタです。乾いた明るい草を好み、緑色～黄褐色をした体は、草の葉っぱにそっくりです。

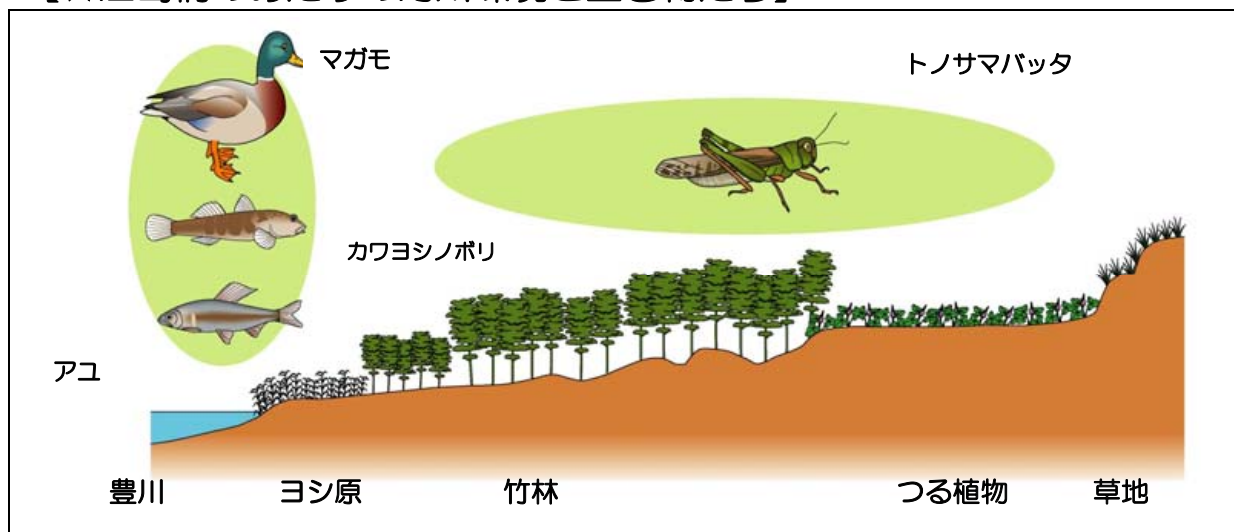
昆虫

ハグロトンボ



真っ黒な羽を持つトンボ。水草や水辺の草が茂る緩やかな流れを好みます。羽化したばかりのときは、河畔林などで過ごし、しばらくすると水辺に戻ってきます。

えじまばし
【★江島橋のあたりの河川環境と生き物たち】



川は中流域の環境になり、瀬と淵がかわるがわるあらわれ、変化が出てきます。水中にはカワヨシノボリなどのハゼ類ほか、多くの魚がみられます。

川岸にはヨシ原がみられ、水際から離れるにつれて竹林・草地へと移り変わります。

鳥類

マガモ



淡水にすむカモのなかまで、オスは頭が緑色っぽく見えます。湖や川、都会の公園の池などでみられます。日本には冬鳥としてやってきます。餌は植物で、地上で草の実をついばんだり、水草を食べたりします。

魚類

カワヨシノボリ



体の長さが 6cm くらいのハゼのなかまでです。ハゼのなかまには海と川を行き来する種類が多いですが、カワヨシノボリは一生涯を川でくらしします。川の中流～上流の、川底が石になっているところでみられます。

魚類

アユ



川でとれる食用の魚の代表です。大きな口で、川底の石についた藻を食べます。卵からかえった稚魚は海に下り、沿岸で成長します。春には群れをつくって川をさかのぼります。

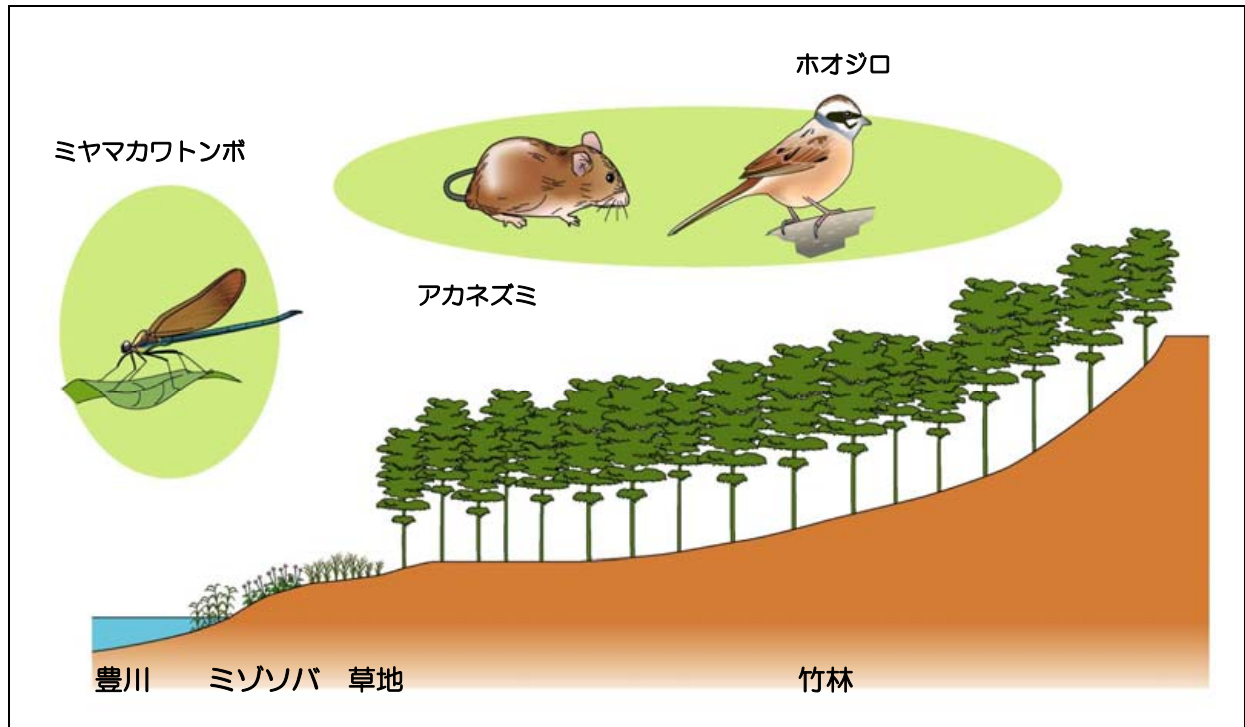
昆虫

トノサマバッタ



大型のバッタで、体の大きさは 5～6.5cm です。河原や空き地などの開けた場所で夏～秋によくみられます。秋の終わりに卵を土の中に産みつけます。卵は翌年の春～初夏にかえり、幼虫が地上に出てきます。

しんしろばし
【★新城橋のあたりの河川環境と生き物たち】



江島橋と同じく河川中流域の環境にあたります。水際には、水辺を好む植物（ミソソバ）が生え、ミヤマカワトンボなどの昆虫がみられます。

水際から少し離れたところに、オオクサキビなどが生えている草地があります。堤防斜面には竹林が広がり、ホオジロなどの小鳥や、アカネズミなどの小動物のすみかになっています。

鳥類

ホオジロ



スズメより少し大きいくらいの小鳥です。名前のおり頬が白色です。藪のある、明るい開けた場所を好みます。地上の草陰などに、植物の茎などを使ってお椀型の巣をつくります。

哺乳類

アカネズミ



しっぽを除く体の長さが 10cm 前後のネズミで、森や河川敷などで暮らします。植物の種（ドングリ）や、昆虫を食べ、地中に巣穴をつくります。

昆虫

ミヤマカワトンボ



橙褐色の翅をもつトンボです。山地・丘陵地でみられ、初夏に翅をパタパタさせながら川の近くを飛びまわります。

メスは水中に潜り、草の根に卵を産みつけます。

豊川 生き物カレンダー

このパンフレットで紹介した生き物がみられる時期を紹介します。

区分	名前	春	夏	秋	冬
鳥類	ユリカモメ	■		■	■
	マガモ	■		■	■
	ホオジロ	■	■	■	■
哺乳類	カヤネズミ	■	■	■	■
	アカネズミ	■	■	■	■
魚類	アユ	(川をのぼる時期)	■	(川をくだる時期・産卵時期)	
	カワヨシノボリ	■	■	■	■
昆虫	ハグロトンボ		■		(成虫)
	ショウリョウバッタ		■	■	(幼虫・成虫)
	トノサマバッタ	■	■	■	(幼虫・成虫)
	ミヤマカワトンボ		■	■	(成虫)

「河川水辺の国勢調査」についての紹介

「河川水辺の国勢調査」とは、河川事業、河川管理等を適切にすすめるため、河川を環境という観点からとらえ、定期的、継続的、統一的な基礎データを整備するための調査です。

豊川で実施された「河川水辺の国勢調査」調査結果の一部を紹介します。

【平成18年度の調査で確認された重要種】

重要種とは、レッドデータブック(=絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本)などにより、近年減少しつつあるとされている種です。

イセウキヤガラ



河口部の干潟などに生える多年生の草です。近年は生育できる環境が少なくなりつつあります。

タコノアシ



湿地に生える多年生の草です。秋に花をつけた枝が鮮やかな赤色でタコの足に似た形をしていることから、この名前がつけました。

【平成18年度の調査で確認された特定外来生物】

特定外来生物とは、外国から日本に入ってきた生物のうち、特に日本の動植物や人間に被害を与える種として、環境省に指定された種です。

アレチウリ



ウリの仲間のつる植物です。輸入大豆に混じって日本に入ってきたといわれています。非常に速く育ち、他の植物を覆い隠してしまうため、下に生えている植物に光が届かなくなってしまいます。

ポタンウキクサ



池や沼、河川などの水面に浮かぶ水草です。水槽に浮かべて楽しむため輸入されて日本に入ってきました。水面を覆い隠して光をさえぎるため、他の植物の光合成を妨げるといわれています。

国土交通省 中部地方整備局

豊橋河川事務所 調査課

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6
TEL 0532-48-8107 FAX 0532-48-8100
URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>
メールアドレス toyohashi@cbr.mlit.go.jp